

テーマ	決算整理仕訳 (I)									
学籍番号									氏 名	

	借方	貸方
(1)		
(2)		
(3)		
(4)		
(5)		
(6)		
(7)		
(8)		
(9)		
(10)		
(11)		
(12)		
(13)		

授業の感想など	
---------	--

1. 次の取引について仕訳を示しなさい。

- (1) 本日、決算を迎えたが、現金過不足¥500（借方残）については依然として原因が判明しないままであった。
- (2) 本日、決算を迎えたが、現金過不足¥250（貸方残）については依然として原因が判明しないままであった。
- (3) 決算日となり商品に関して決算整理仕訳を行う。なお、当期商品仕入高は¥10,000、期首商品棚卸高は¥2,000、期末商品棚卸高は¥3,000 であった。売上原価は仕入勘定で算定する。
- (4) 売掛金¥10,000 が回収不能となった。
- (5) 決算にあたり、売掛金¥200,000 に対して 3%の貸倒引当金を設定する。なお、貸倒引当金の残高は¥2,000 である。
- (6) 株式 10 株(取得価額@¥50,000)が 1 株 40,000 に値下がりしているので、評価損を計上した。
- (7) 株式 10 株(取得価額@¥50,000)が 1 株 60,000 に値上がりしているので、評価益を計上した。
- (8) 取得価額¥500,000、残存価額は取得価額の 10%、耐用年数 5 年の備品を減価償却した。（直接法）
- (9) 取得価額¥500,000、残存価額は取得価額の 10%、耐用年数 5 年の備品を減価償却した。（間接法）
- (10) 消耗品を 現金¥800 で購入した。（購入時資産処理）
- (11) 上記(10)の消耗品について、決算日における未使用高は ¥200 であった。（購入時資産処理）
- (12) 消耗品を 現金¥800 で購入した。（購入時費用処理）
- (13) 上記(12)の消耗品について、決算日における未使用高は ¥200 であった。（購入時費用処理）